

「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」

評 価 基 準

(品質・性能等の評価に関する事項)

令和 8 年版

評価対象材料名

鋼製軽量建具

細 目

[標準型建具を含む]

一般社団法人 公共建築協会

評価基準の説明 【鋼製軽量建具【標準型建具を含む】】

1. 評価対象

「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（以下「標仕」という。）令和7年版16章5節に規定する鋼製軽量建具とし、標準型鋼製軽量建具も含むものとする。なお、開口寸法は、片開き、親子開きおよび両開き戸の1枚の戸の有効開口幅は950mm以下、有効高さは2,400mm以下とする。

2. 引用している規定

（1）標仕 令和7年版

（2）日本産業規格

- ・ JIS A 1416 : 2000 「実験室における建築部材の空気音遮断性能の測定方法」
- ・ JIS A 1492 : 2006 「出窓及び天窓の断熱性試験方法」
- ・ JIS A 1516 : 1998 「建具の気密性試験方法」
- ・ JIS A 1518 : 1996 「ドアセットの砂袋による耐衝撃性試験方法」
- ・ JIS A 1519 : 2020 「建具の開閉力試験方法」
- ・ JIS A 1521 : 1988 「片引きドアセットの面内変形追随性試験方法」
- ・ JIS A 1523 : 1996 「ドアセットのねじり強さ試験方法」
- ・ JIS A 1524 : 1996 「ドアセットの鉛直載荷試験方法」
- ・ JIS A 1530 : 2014 「建具の開閉繰返し試験方法」
- ・ JIS A 2102-1 : 2015 「窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般」
- ・ JIS A 2102-2 : 2011 「窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法」
- ・ JIS A 4702 : 2021 「ドアセット」
- ・ JIS A 4710 : 2015 「建具の断熱性試験方法」
- ・ JIS G 3302 : 2022 「溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯」
- ・ JIS G 3312 : 2024 「塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯」
- ・ JIS G 3313 : 2021 「電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯」
- ・ JIS G 4305 : 2021 「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」
- ・ JIS H 4100 : 2022 「アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材」
- ・ JIS K 6744 : 2023 「ポリ塩化ビニル被覆金属板及び金属帯」
- ・ JIS Q 1000 : 2005 「適合性評価－製品規格への自己適合宣言指針」
- ・ JIS Q 17050-1 : 2005 「適合性評価－供給者適合宣言－第1部：一般要求事項」

3. 令和6年度版からの主な改定点

（1）標仕改定による見直し

- a. 「材料」「防音性能を求める場合の充填材」の規定について、追加
- b. 「鋼板の厚さ」の「枠類のつなぎ補強板」の規定について、追加
- c. 「加工・組立」の規定について、変更

（2）内容の見直し

- a. 「面内変形追随性」、「遮音性」、「断熱性」について、標仕に整合させるため、付帯性能として追加

4. 令和7年度版からの主な改定点

- ・ なし

5. その他

（1）【付帯性能】とは、評価項目ではないが、使用箇所等によっては、その性能が必要となるものをい

う。

- (2) 「品質・性能」欄の“申請者の規定による。”とは、評価基準としての規定がないため、申請者の規定によることとする。なお、審査は、記入された申請者の規定について、社内規定等と照合して確認することとしている。
- (3) 赤字は、令和6年版からの改定箇所を示す。

評価基準

鋼製軽量建具〔標準型建具を含む〕

1

項 目			品 質 ・ 性 能	備 考
材 料	鋼 板	材 質	JIS G 3302 または JIS G 3313	
		めっき 付着量	JIS G 3302 による Z06、F06 または JIS G 3313 による E24 以上	
	ビニル被覆鋼板	材 質	JIS K 6744 により、被覆原板の種類は SG または SE	
		めっき 付着量	JIS K 6744 による Z06、F06、E24 以上	
	カ ラ ー 鋼 板	材 質	JIS G 3312、JIS G 3302 または JIS G 3313	
		めっき 付着量	(JIS G 3302 または JIS G 3313 の場合) JIS G 3302 による Z06、F06 または JIS G 3313 による E24 以上	
	ステンレス鋼板	材 質	JIS G 4305 による SUS304、SUS430J1L または SUS443J1	
	く つ ず り	材 質	JIS G 4305 による SUS304、SUS430J1L または SUS443J1	
		表 面 仕上げ	HL	
	上吊り引戸の下枠 (ガイドレール等)		材 質	JIS G 4305 による SUS304、SUS430J1L または SUS443J1
	召合せ・ 縦小口 包み板等	鋼 板 の 場 合	材 質	JIS G 3302 または JIS G 3313
			めっき 付着量	JIS G 3302 による Z06、F06 または JIS G 3313 による E24 以上
		ステンレ ス鋼板の 場 合	材 質	JIS G 4305 による SUS304、SUS430J1L または SUS443J1
			表 面 仕上げ	HL
		アルミニウム合金 押出型材の場合		JIS H 4100
	戸 の 心 材		ペーパーコア、水酸化アルミ無機シートコアまたは発泡材	
	防音性能を求める場合の 充 填 材		グラスウールまたはロックウール	
	気 密 材 (簡易気密型の場合)		合成ゴム (EPDM、クロロプレン等)、合成樹脂 (塩化ビニル等) の類	
	押縁留付け用小ねじ		ステンレス製	
	接 着 剤		合成ゴム系、酢酸ビニル樹脂系、エポキシ樹脂系またはウレタン樹脂系	

評価基準

鋼製軽量建具〔標準型建具を含む〕

2

形状・仕上げ

項 目		品 質 ・ 性 能				備 考			
鋼 板 類 の 厚 さ		区分	使用箇所	厚さ (mm)					
		枠 類	一般部分	1.6					
			くつずり	1.5					
		戸	表面板	0.6 以上					
			力骨、中骨	1.6					
			召合せ、縦小口包み板、押縁	鋼 板 : 0.6 以上					
				ステンレス鋼板 : 0.6 以上					
		その他	額縁、添え枠	1.6					
		枠類のつなぎ補強板		1.6 以上					
		補強板の類		2.3 以上					
製 品 の 許 容 差		対象部位	ドアセットの寸法	許容差 (mm)	相対する辺寸法の差 (mm)				
		枠 の 幅	950 以下	± 1.5	2 以下				
		枠の高さ	2,000 未満	± 1.5	2 以下				
			2,000 以上 2,400 以下	± 2.0	3 以下				
		枠 見 込	120 未満	± 1.0	—				
			120 以上 150 未満	± 1.5	—				
			150 以上 200 未満	± 2.0	—				
			200 以上	± 2.5	—				
		戸 の 見 込 み 寸 法					35mm以上		
		ガラス溝の寸法、形状等					申請者の規定による。		
素 地 ご し ら え ・ 錆 止 め 塗 料 塗 り					標仕の「表 18.3.5 亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料塗り」のA種				

項目		品質・性能	備考
加工・組立	全般	注 意 点	加工および組立は、以下の内容を標準とし、特に、開閉具合に注意すること。
		溶 接 部 、 隅 、 角 等	組立後、平滑に仕上げること。
		溶融亜鉛めっき鋼板の溶 接 部 、 損 傷 部 等	塗装に先立ち、パテ処理等を行い、平滑に仕上げること。
		外 観	建具には、使用上有害なきず、欠け、割れなどがないこと。
	枠 類	枠	隅は、 胴付き面落ち（同面も可） または留めとし、溶接とすること。ただし、水掛りを除き、溶接に代えて小ねじ留め（裏板厚さ 2.3mm 以上）にすることができる。
		く つ ず り	縦枠内に納め、裏面で溶接すること。 なお、屋内（水掛かりを除く。）の場合は、小ねじ留めとすることができる。小ねじ留めの場合は、裏板厚さ 2.3mm 以上とすること。
		枠類のつなぎ補強板	見え隠れ部に、つなぎ補強板を、両端から逃げた位置から間隔 600mm 以下に取り付けること。
		金物取合い補強板	枠の丁番、ドアクローザ、ピボットヒンジ等が取り付く箇所には、裏面に補強板を取り付けること。
	戸	表 面 板	次のいずれかとすること。 1. 心材にかぶせ、接着剤を用いて圧着する。 2. 力骨にかぶせ溶接し、心材を充填する。
		縦 小 口 包 み 板	申請者の規定による。
		召 合 せ	申請者の規定による。
		金物取合い補強板	錠、丁番、ドアクローザ、ピボットヒンジ等の取り付く箇所及び順位調整器のローラー等が接する部分には、裏面に補強板を取り付ける。なお、順位調整器のローラー等が接する部分及び錠のハンドル等の部分に、へこみ防止の裏板を取り付ける場合の補強板は、厚さ 1.6mm 以上の鋼板とする。

評価基準

鋼製軽量建具〔標準型建具を含む〕

4

項 目			品 質 ・ 性 能				備 考																			
性 能	ね じ り 強 さ	載荷荷重 200N	試験後、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。																							
	鉛 直 荷 重 強 さ	載荷荷重 500N	試験後、残留変位が3mm以下で、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。																							
	耐 衝 撃 性 注):スライディングおよび戸の面積の 50%以上をガラスが占めるものは適用外	落下高さ 170mm	1 回の衝撃で有害な変形がなく、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。ただし、ガラスの破損は判定に含まない。																							
	開 閉 力	載荷荷重 50N	試験後、戸が円滑に開くこと、また円滑に閉じること。																							
	開 閉 繰 返 し	開閉回数 10 万回	試験後、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。																							
	簡易気密型ドアセットの気密性 [付帯性能]	<table><tr><td>気 密 性 の 等 級</td><td colspan="3">A-3</td></tr><tr><td>気 密 等 級 線</td><td colspan="3">A-3 等級線</td></tr></table> 通気量が JIS A 4702 の図 1 に規定する気密等級線以下であること。						気 密 性 の 等 級	A-3			気 密 等 級 線	A-3 等級線													
	気 密 性 の 等 級	A-3																								
	気 密 等 級 線	A-3 等級線																								
面 内 変 形 追 従 性 (ド ア セ ッ ト の み) [付帯性能]	<table><tr><td>面内変形追従性の等級</td><td>D-1</td><td>D-2</td><td>D-3</td></tr><tr><td>面内変形角 (rad)</td><td>1/300</td><td>1/150</td><td>1/120</td></tr></table> 等級に対応する面内変形角において、戸が 90° 以上開くこと。また、加力中に、戸が開かないこと。						面内変形追従性の等級	D-1	D-2	D-3	面内変形角 (rad)	1/300	1/150	1/120												
面内変形追従性の等級	D-1	D-2	D-3																							
面内変形角 (rad)	1/300	1/150	1/120																							
遮 音 性 [付帯性能]	<table><tr><td>等 級</td><td>T-1</td><td>T-2</td><td>T-3</td><td>T-4</td></tr><tr><td>遮音等級線</td><td>T-1 等級線</td><td>T-2 等級線</td><td>T-3 等級線</td><td>T-4 等級線</td></tr></table>						等 級	T-1	T-2	T-3	T-4	遮音等級線	T-1 等級線	T-2 等級線	T-3 等級線	T-4 等級線										
等 級	T-1	T-2	T-3	T-4																						
遮音等級線	T-1 等級線	T-2 等級線	T-3 等級線	T-4 等級線																						
断 熱 性 [付帯性能]	<table><tr><td>等 級</td><td>H-1</td><td>H-2</td><td>H-3</td><td>H-4</td><td>H-5</td><td>H-6</td><td>H-7</td><td>H-8</td></tr><tr><td>熱 貫 流 率 (W/(㎡・K))</td><td>4.7 以下</td><td>4.1 以下</td><td>3.5 以下</td><td>2.9 以下</td><td>2.3 以下</td><td>1.9 以下</td><td>1.5 以下</td><td>1.1 以下</td></tr></table> 注):熱貫流率は、試験による場合、JIS A 4710 による標準化熱貫流率とする。						等 級	H-1	H-2	H-3	H-4	H-5	H-6	H-7	H-8	熱 貫 流 率 (W/(㎡・K))	4.7 以下	4.1 以下	3.5 以下	2.9 以下	2.3 以下	1.9 以下	1.5 以下	1.1 以下		
	等 級	H-1	H-2	H-3	H-4	H-5	H-6	H-7	H-8																	
熱 貫 流 率 (W/(㎡・K))	4.7 以下	4.1 以下	3.5 以下	2.9 以下	2.3 以下	1.9 以下	1.5 以下	1.1 以下																		
標準型鋼製軽量建具	有 効 内 法 寸 法		<table><tr><td>形 式</td><td colspan="2">幅 (mm)</td><td colspan="2">高さ (mm)</td></tr><tr><td>片 開 き</td><td colspan="2">900、 950</td><td colspan="2" rowspan="3">2,000 または 2,100</td></tr><tr><td>親 子 開 き</td><td colspan="2">1,200、 1,250</td></tr><tr><td>両 開 き</td><td colspan="2">1,800、 1,900</td></tr></table> 注) 下端の寸法押えの位置は、床仕上げ面とする。				形 式	幅 (mm)		高さ (mm)		片 開 き	900、 950		2,000 または 2,100		親 子 開 き	1,200、 1,250		両 開 き	1,800、 1,900					
	形 式	幅 (mm)		高さ (mm)																						
	片 開 き	900、 950		2,000 または 2,100																						
	親 子 開 き	1,200、 1,250																								
	両 開 き	1,800、 1,900																								
建 具 用 金 物	錠 類		シリンダー箱錠																							
	ハ ン ド ル		レバーハンドル (アルミニウム合金製)																							
	ドアクローザ		露出型																							
	丁 番		ステンレス製 (ただし、鉄芯も可とする。)																							

評 価 基 準

鋼製軽量建具〔標準型建具を含む〕

5

項 目	品 質 ・ 性 能	備 考
試験方法	- ねじり強さ試験は、JIS A 1523 による。 - 鉛直荷重強さ試験は、JIS A 1524 による。 - 耐衝撃性試験は、JIS A 1518 による。 - 開閉力試験は、JIS A 1519 による。 - 開閉繰返し試験は、JIS A 1530 による。 - 気密性試験は、JIS A 4702 の「9.8 気密性試験」による。 - 面内変形追従性試験は、JIS A 1521 による。 - 遮音性試験試験は、JIS A 4702 の「9.10 遮音性試験」による。 - 断熱性試験は、JIS A 4710 による。なお、断熱性能を計算により行う場合は、JIS A 2102-1 および JIS A 2102-2 による計算書に加え、JIS Q 1000 および JIS Q 17050-1 による自己適合宣言書を提出する。また、試験結果は、有効数字 2 桁で表すこととする。 - 試験体は、W 950mm × H 2,400mm 程度とする。	